



グローバル・スマート・イノベーション・オープン  
(年2回決算型) / (年1回決算型) <愛称:i シフト>  
<追加型投信 / 内外 / 株式>

ファンド情報提供資料  
データ基準日: 2016年4月28日

今後も利益成長が期待されるグローバル情報技術関連企業

平素は「グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年2回決算型) / (年1回決算型) <愛称:i シフト>」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドの主要投資対象である情報技術およびその派生分野に関連する企業のうち、革新的技術等によって今後の成長が期待される企業(以下グローバル情報技術関連企業といいます。)は、足下で決算発表が相次いでおり、今後の動向が注目されています。そこで、グローバル情報技術関連企業の3つの注目点と当ファンドの運用状況や今後の運用方針についてのレポートを作成いたしました。今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※本レポートはT. ロウ・プライス・アソシエイツ・インクのコメントを基に作成しております。

グローバル情報技術関連企業の3つの注目点

1 幅広い分野で活躍が期待されるグローバル情報技術関連企業

グローバル情報技術関連企業は、製造業、金融、医療、メディア、輸送等、様々な分野での活躍が予想されており、これらの技術やサービスは社会・経済のインフラとして不可欠なものになりつつあります。

2 利益成長が今後も期待されるグローバル情報技術関連企業

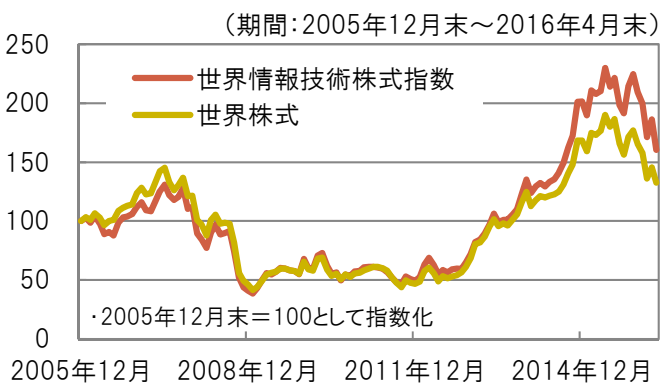
グローバル情報技術関連セクターには、新たな分野を開拓して市場シェアを拡大できる可能性のある企業が多く存在していること等から、グローバル情報技術関連企業は今後も利益成長を続けることが期待されます。

3 強い競争力を持つグローバル情報技術関連企業

グローバル情報技術関連セクターでは、革新的な技術や企業が次々と生まれるため、変化のスピードが速く競争が激化しやすい傾向があります。そのため、革新的な成長モデルを築き、強い競争力のある企業が成長し続けることができるとみられます。

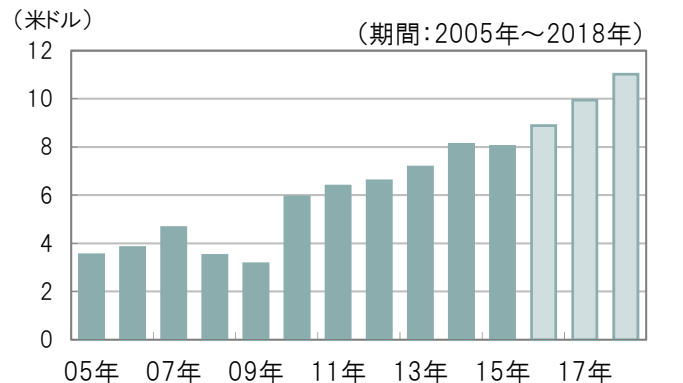
【ご参考】

世界株式と世界情報技術株式指数(円換算)の推移



(出所)ブルームバーグ社のデータを基に三菱UFJ国際投信作成

世界情報技術株式指数のEPS(1株当たり純利益)の推移



・2016年以降はブルームバーグ社の予想(2016年5月9日現在)  
(出所)ブルームバーグ社のデータを基に三菱UFJ国際投信作成

グローバル情報技術関連株式の上昇に期待

■ 上記は、過去の実績・状況です。本見通しないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。■ 計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。■ 上記は指数を使用しております。指数については【本資料で使用した指数について】をご覧ください。

## グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年2回決算型) / (年1回決算型) &lt;愛称:i シフト&gt;

## 当ファンド設定来の投資環境や運用状況について

当ファンド設定来から2016年2月上旬にかけて、原油価格の下落や中国の景気減速懸念等を背景に、投資家のリスク回避的な動きが強まり、世界の株式市場は下落しました。こうした中、グローバル情報技術関連企業の決算発表が行われ内容は悪くはなかったものの、投資家のリスク回避的な動きを受けて、グローバル情報技術関連株式の株価は軟調な展開が続きました。2月中旬以降、原油価格の持ち直しや米国で堅調な経済指標が発表されたことを受け、投資家のリスク回避的な動きが後退し、グローバル情報技術関連株式は大きく反発しました。

なお、米ドル(対円)は2016年2月中旬にかけて投資家のリスク回避的な動きが強まったことから米ドル安(円高)となりました。その後、米国の利上げ観測の後退等を受けてさらに米ドル安(円高)が進行しましたが、4月下旬にかけて日銀のさらなる金融緩和に対する期待が高まり米ドル高(円安)傾向となりました。

当ファンドは、設定以来、インターネット関連銘柄やクラウド関連銘柄等に投資を行い、上記の相場環境の中では株価下落の影響を受けたものの、2月中旬からの株価反発局面ではプラスの影響を享受できました。一方で、設定来、為替が円高基調で推移したため、当ファンドの基準価額にはマイナスの影響となりました。

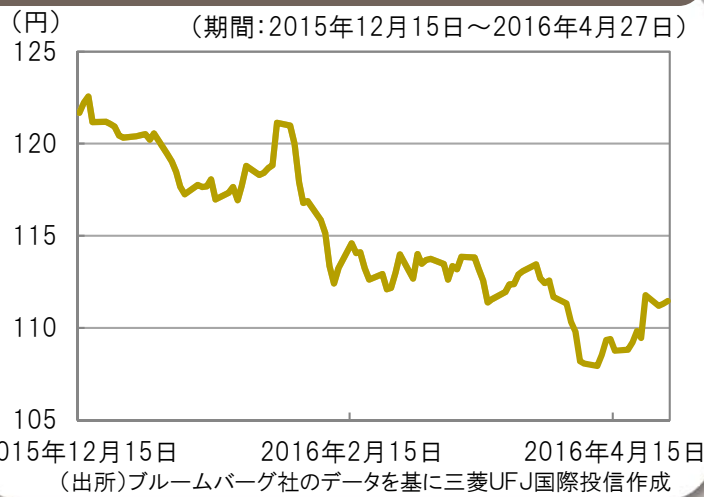
## 【ご参考】世界情報技術株式指数(円換算)の推移

(期間:2015年12月15日~2016年4月27日)



## 米ドル(対円)の推移

(期間:2015年12月15日~2016年4月27日)



・上記は当ファンドの基準価額算出基準に合わせて掲載しています。

## 足下における当ファンドの組入銘柄の決算動向

2016年4月下旬からグローバル情報技術関連企業の2016年1-3月期の決算発表が始まっています。

- ・アマゾン・ドット・コムは2016年1-3月期の売上高、利益ともに市場予想を大幅に上回りました。
- ・NXPセミコンダクターズは、取引先であるアップル社のiPhone販売減速の影響が懸念される中、同社のビジネスモデルの成長性に影響はみられず、2016年1-3月期の売上高、利益ともに市場予想を上回りました。
- ・アルファベットは、2016年1-3月期の売上高、利益が市場予想を下回りました。

## 当ファンドの組入上位10銘柄の決算発表日 (2016年4月末現在)

| 銘柄名            | 組入比率 | 国名   | 業種          | 決算発表日 |
|----------------|------|------|-------------|-------|
| NXPセミコンダクターズ   | 9.1% | オランダ | 半導体・半導体製造装置 | 4月25日 |
| アマゾン・ドット・コム    | 8.7% | 米国   | 小売          | 4月28日 |
| ワークデイ          | 7.0% | 米国   | ソフトウェア・サービス | 5月31日 |
| セールスフォース・ドットコム | 5.0% | 米国   | ソフトウェア・サービス | 5月18日 |
| リパティ・グローバル     | 5.0% | 英国   | メディア        | 5月9日  |
| プライスライン・グループ   | 4.8% | 米国   | 小売          | 5月4日  |
| テンセント・ホールディングス | 4.7% | 中国   | ソフトウェア・サービス | 5月18日 |
| セイバー           | 4.3% | 米国   | ソフトウェア・サービス | 4月28日 |
| アルファベット        | 4.3% | 米国   | ソフトウェア・サービス | 4月21日 |
| ASMLホールディング    | 4.1% | オランダ | 半導体・半導体製造装置 | 4月20日 |

※当レポートの各数値は表示桁数未満で四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

※「組入上位10銘柄」の比率はマザーファンドの対純資産比率です。

※業種はGICS(世界産業分類基準)によるものです。

※決算発表日は2016年5月10日現在のブルームバーグ社によるものです。下線は現時点での決算発表予定日です。

■上記は、過去の実績・状況です。本見通ししない分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。■上記は指数を使用しております。指数については【本資料で使用した指数について】をご覧ください。

## グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年2回決算型) / (年1回決算型) &lt;愛称:i シフト&gt;

## 今後の見通しと運用方針

米国経済は堅調に推移しており、欧州についても、緩和的な金融政策が景気を下支えすることや、ユーロ安が企業の輸出競争力に寄与する効果も期待されます。中国については、投資家の心理状態の変化による株式市場の変動には注視する必要があるものの、経済構造が消費主導型へシフトしつつあることにより成長が支えられる面に注目しています。当ファンドの運用については、引き続き、情報技術およびその派生分野に関連する企業のうち、革新的技術等によって今後の成長が期待される企業への投資を行います。銘柄選定に当たっては、オンライン通販等のインターネット関連ビジネスで支配的な地位を占める企業をはじめ、様々なモノが無線通信等により連携するIoT(Internet of Things)や、クラウド・コンピューティング、自動運転等の人工知能(AI, Artificial Intelligence)等、革新的な技術に強みを持つ企業に注目しています。

## 当ファンドの基準価額の推移(2015年12月16日(設定日)~2016年4月28日)

年2回  
決算型年1回  
決算型

※基準価額(1万口当たり)は、信託報酬控除後のものです。  
 ※上記はあくまで過去の実績であり、将来の投資成果をお約束するものではありません。



# グローバル・スマート・イノベーション・オープン

(年2回決算型) / (年1回決算型)

<愛称> iシフト

追加型投信 / 内外 / 株式

## ファンドの目的・特色

### ファンドの目的

日本を含む世界各国の株式等を実質的な主要投資対象とし、値上がり益の獲得および配当収益の確保をめざします。

### ファンドの特色

**【特色1】 情報技術およびその派生分野に関連する企業のうち、革新的技術等によって今後の成長が期待される企業の株式等に投資を行います。**

- ◆日本を含む世界各国の株式等を主要投資対象とします。  
※なお、不動産投資信託証券その他の証券に投資する場合があります。
- ◆株式等への投資にあたっては、「スマート・イノベーション」に着目し、情報技術の業種の範疇に留まらず多様な業種から、ファンダメンタルズ分析に基づいた銘柄選定を行います。  
※当ファンドにおいて、ファンダメンタルズ分析とは、個別企業の財務データや業績見通しといった株価を動かす基本的な要因を重視した分析をいいます。

**【スマート・イノベーションとは】** 当ファンドにおいて、情報技術およびその派生分野における革新的技術等がもたらす変革のことをいいます。

- ◆株式等の組入比率は、高位を維持することを基本とします。
- ◆外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

**【特色2】 株式等の運用にあたっては、T. ロウ・プライス・アソシエイツ・インクに運用指図に関する権限を委託します。**

資金動向や市況動向等の事情によっては、特色1、特色2のような運用ができない場合があります。

**【特色3】 <年2回決算型> 年2回決算を行い、収益の分配を行います。  
<年1回決算型> 年1回決算を行い、収益の分配を行います。**

#### <年2回決算型>

- ◆毎年6月5日および12月5日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円(10,000口当たり)を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。(資金動向や市況動向等により変更する場合があります。)

#### <年1回決算型>

- ◆毎年12月5日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

#### <年2回決算型> <年1回決算型>

##### 収益分配方針

- ・分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ・収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

### ■ ファンドのしくみ: ファミリーファンド方式により運用を行います。

ファミリーファンド方式とは、受益者から投資された資金をまとめた投資信託をベビーファンドとし、その資金の全部または一部をマザーファンドに投資して、マザーファンドにおいて実質的な運用を行う仕組みです。



# グローバル・スマート・イノベーション・オープン

(年2回決算型) / (年1回決算型)

<愛称> iシフト

追加型投信 / 内外 / 株式

## 投資リスク

### ■ 基準価額の変動要因

基準価額は、組入有価証券等の値動きや為替相場の変動等により上下します。また、組入有価証券の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の影響を受けます。

したがって、**投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。**

主な変動要因は以下の通りです。

### ● 価格変動リスク

- 株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。また、当ファンドは、特定のテーマ(情報技術およびその派生分野)に沿った銘柄に投資するため、株式市場全体の動きと当ファンドの基準価額の動きが大きく異なる場合があります。また、より幅広い銘柄に分散投資する場合と比べて当ファンドの基準価額が大きく変動する場合があります。
- リートの価格は、当該リートが組入れている不動産等の価値や賃料等に加え、様々な市場環境等の影響を受けます。リートの価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。

### ● 為替変動リスク

当ファンドは、世界各国の現地通貨建等の有価証券に投資します。外貨建資産に投資を行いますので、投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なれば基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なれば基準価額の下落要因となります。

### ● 信用リスク

投資している有価証券等の発行会社の倒産、財務状況または信用状況の悪化等の影響により、当ファンドの基準価額は下落し、損失を被ることがあります。

### ● 流動性リスク

有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、あるいは売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことがあります。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、あるいは当ファンドの解約金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢より低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、この場合には当ファンドの基準価額の下落要因となります。

### ● カントリー・リスク

有価証券等の発行国・地域の政治や経済、社会情勢等の変化(カントリー・リスク)により金融・証券市場が混乱して、価格が大きく変動する可能性があります。新興国のカントリー・リスクとしては主に以下の点が挙げられます。

- 先進国と比較して経済が一般的に脆弱であると考えられ、経済成長率やインフレ率等の経済状況が著しく変化する可能性があります。
  - 政治不安や社会不安、他国との外交関係の悪化により海外からの投資に対する規制導入等の可能性があります。
  - 海外との資金移動に関する規制導入等の可能性があります。
  - 先進国とは情報開示に係る制度や慣習等が異なる場合があります。
- この結果、新興国の有価証券等への投資が著しく悪影響を受ける可能性があります。

上記のリスクは主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。  
くわしくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

### ■ その他の留意点

- 投資信託(ファンド)の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

## 委託会社およびファンドの関係法人

- 委託会社 三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会
- 受託会社 三菱UFJ信託銀行株式会社  
(再信託受託会社: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
- 再委託先 T. ロウ・プライス・アソシエイツ・インク

- 販売会社 販売会社の照会先は以下の通りです。  
三菱UFJ国際投信株式会社  
TEL 0120-151034 (フリーダイヤル)  
受付時間/営業日の9:00~17:00  
ホームページ <http://www.am.mufg.jp/>

※後記の「本資料に関してご留意頂きたい事項」を必ずご覧ください。



# グローバル・スマート・イノベーション・オープン

(年2回決算型) / (年1回決算型)

<愛称> iシフト

追加型投信 / 内外 / 株式

**手続・手数料等** お申込みの際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■お申込みメモ

### 【購入時】

- 購入単位 販売会社が定める単位
- 購入価額 購入受付日の翌営業日の基準価額

### 【換金時】

- 換金単位 販売会社が定める単位
- 換金価額 換金受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額\*を差引いた価額  
\*換金受付日の翌営業日の基準価額に**0.3%**をかけた額とします。
- 換金代金 原則として、換金受付日から起算して5営業日目から、販売会社にてお支払いします。

### 【申込について】

- 申込不可日 ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかが休業日の場合には、購入・換金はできません。
- 換金制限 各ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求には制限を設ける場合があります。

### 【その他】

- スイッチング 各ファンド間でのスイッチングが可能です。  
※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。  
スイッチングを行う場合の手続・手数料等は、販売会社に確認してください。
- 信託期間 平成37年12月5日まで(平成27年12月16日設定)
- 繰上償還 各ファンドの受益権の口数が、10億口を下回ることとなった場合等には、繰上償還されることがあります。
- 決算日
  - 年2回決算型  
毎年6月5日および12月5日(休業日の場合は翌営業日)※第1期の決算日は平成28年6月6日となります。
  - 年1回決算型  
毎年12月5日(休業日の場合は翌営業日)※第1期の決算日は平成28年12月5日となります。
- 収益分配
  - 年2回決算型  
半年ごとに(年2回)、収益分配方針に基づいて分配を行います。  
販売会社との契約により再投資することも可能です。
  - 年1回決算型  
毎年(年1回)、収益分配方針に基づいて分配を行います。  
販売会社との契約により再投資することも可能です。
- 課税関係  
課税上の取扱いは株式投資信託となります。  
公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象です。  
くわしくは、販売会社にお問い合わせください。  
※配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

## ■ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

|         |  |
|---------|--|
| 購入時手数料  | 購入受付日の翌営業日の基準価額に対して、 <b>上限3.24%(税込)(上限3.00%(税抜))</b> がかかります。<br>(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社に確認してください。) |
| 信託財産留保額 | 換金受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.3%</b> をかけた額とします。  |

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

|                  |  |
|------------------|--|
| 運用管理費用<br>(信託報酬) | 各ファンドの日々の純資産総額に対して、 <b>年率1.944%(税込)(年率1.800%(税抜))</b> をかけた額とします。   |
| その他の費用・<br>手数料   | 監査費用、有価証券等の売買・保管、信託事務にかかる諸費用等についても各ファンドが負担します。<br>※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。 |

※年2回決算型:運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎決算時または償還時に年2回決算型から支払われます。

※年1回決算型:運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時に年1回決算型から支払われます。

※実質的な投資対象である不動産投資信託証券には運用等にかかる費用が発生しますが、投資する不動産投資信託証券は固定されていない等により、あらかじめ金額および上限等を記載することはできません。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。

※後記の「本資料に関してご留意頂きたい事項」を必ずご覧ください。



# グローバル・スマート・イノベーション・オープン

(年2回決算型) / (年1回決算型)

<愛称> iシフト

追加型投信 / 内外 / 株式

**販売会社** お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。

| 金融商品取引業者名  |          | 登録番号             | 日本証券業協会 | 一般社団法人<br>日本<br>投資顧問業<br>協会 | 一般社団法人<br>金融先物<br>取引業協会 | 一般社団法人<br>第二種<br>金融商品<br>取引業協会 |
|--|----------|------------------|---------|-----------------------------|-------------------------|--------------------------------|
| 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社                                  | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第2336号 | ○       | ○                           | ○                       | ○                              |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行<br>(委託金融商品取引業者<br>三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社) | 登録金融機関   | 関東財務局長(登金)第5号    | ○       |                             | ○                       | ○                              |

※今後、上記の販売会社については変更となる場合があります。

### 【本資料で使用した指数について】

#### ■【世界株式】MSCI オールカンントリー・ワールド インデックス(税引き後配当込み米ドル建)

MSCI オールカンントリー・ワールド インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の先進国・新興国の株式で構成されています。

#### ■【世界情報技術関連株式指数】MSCI オールカンントリー・ワールド インフォメーション テクノロジー インデックス(税引き後配当込み米ドル建)

MSCI オールカンントリー・ワールド インフォメーション テクノロジー インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の先進国・新興国の情報技術関連株式で構成されています。

各指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### GICS(世界産業分類基準)について

Global Industry Classification Standard (“GICS”)は、MSCI Inc.(以下MSCI)とThe McGraw-Hill Companies, Inc.の事業部門であるStandard & Poor’s(以下S&P)が開発し、両者が排他的知的財産および商標を有しています。三菱UFJ国際投信(株)は、許諾を得て利用しています。GICSおよびGICSの基準および分類作業に関連したMSCIおよびS&Pとその関係会社あるいは第三者(以下、MSCIおよびS&Pとその関係会社)は、当該基準および分類(あるいは、これらを利用した結果)に関して何らかの保証や表明を行うものではありません。また、MSCIおよびS&Pとその関係会社は、GICSの独創性、正確性、完全性、販売可能性や特定の利用目的に対する適合性等を保証するものではありません。上記のいずれをも制限することなく、いかなる場合においても、MSCIおよびS&Pとその関係会社は、損害が発生する可能性を知悉していた場合であっても、直接的な損害、間接的な損害、特別な損害、懲罰的損害賠償、結果としての損害、その他の損害(逸失利益を含む)について、その責を負いません。

### 本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は三菱UFJ国際投信が作成した販売用資料です。投資信託の取得のお申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。なお、以下の点にもご留意ください。

- 投資信託は預金等や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 銀行等の登録金融機関でご購入頂いた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。